

プレスリリース | PRESS RELEASES

2024.1.1 -2024.12.31

January 1, 2024 - December 31, 2024

和文

発表日	主導機関	所内発表者	タイトル
1.15	水産研究・教育機構	藤井 賢彦 教授	日本沿岸域の酸性化進行状況に関するモニタリング結果を公表
2.2	東京大学	岩田 容子 准教授 / 河村 知彦 教授	イカ墨の暗幕で求愛の舞台を作る ―墨を使ったエゾハリイカの特種な求愛行動―
2.28	東京大学	伊藤 進一 教授	日本周辺の魚類の小型化 ―温暖化により顕著になった餌をめぐる競合―
3.1	東京大学 大気海洋研究所	伊藤 進一 教授 / 朴 進午 准教授	令和 6 年能登半島地震に伴う学術研究船「白鳳丸」緊急調査航海（第三次）の実施について ―共同利用研究航海：地震発生域の海洋地球科学総合調査―
3.4	東京大学 大気海洋研究所	横山 祐典 教授 / 平林 頌子 講師 / 宮入 陽介 特任助教 / 宮島 利宏 助教	奄美群島喜界島の地下水は何と 5 種類 ―同位体による地下水動態の解明―
3.6	東京大学	木下 千尋 特任研究員 / 佐藤 克文 教授 / 坂本 健太郎 准教授	潜水中のウミガメの心拍数は 2 回 / 分まで低下する ―アカウミガメが海を深く潜るときの驚くべき心拍数―
3.6	東京大学	神田 真司 准教授 / 藤森 千加 特任研究員	ピラニアが示した進化のシナリオ ―古典的形質を維持していた生物から得られた GnRH パラログ進化の仮説―
4.19	東京大学 大気海洋研究所	横山 祐典 教授 / 安田 一郎 教授 / 平林 頌子 講師 / 江 思宇 特任研究員 / 齊藤 宏明 教授 / 宮入 陽介 特任助教 / 羽角 博康 教授	黒潮大蛇行の謎に迫る ―炭素 14 を使って黒潮内部を可視化する―
4.24	東京大学	岩田 容子 准教授 / 河村 知彦 教授	イカの生き方は誕生日で決まる ―雄の繁殖戦略が決定される要因を解明―
5.8	東京大学	横山 祐典 教授 / SPROSON Adam 特任研究員 / 宮入 陽介 特任助教 / 阿瀬 貴博 技術専門職員	ミランコビッチ仮説の矛盾点に迫る ―南北半球の氷期と間氷期変動が同調する理由―
5.14	東京工業大学	渡邊 太郎 技術専門職員 / 黄 國成 助教	胃を持たない魚類が収斂（しゅうれん）的に失った 遺伝子 を特定 ―器官の喪失に伴うゲノム変化の理解に向けて前進―
5.24	富山大学	高畑 直人 助教	能登半島北東部の温泉水から深部流体成分の混入と化学成分の変動を観測
6.10	北里大学	高木 互 助教	魚類胚の卵黄多核層における糖新生を発見
6.13	東京大学	渡部 雅浩 教授	熱帯太平洋の温暖化パターンは時とともに変化する
6.27	東京大学	神田 真司 准教授	卵を育てる視床下部因子 “FSH-RH” の発見 ―GnRH の発見から 50 年ぶりのメジャーアップデート―
6.30	東京大学	横山 祐典 教授 / 宮入 陽介 特任助教 / 永田 俊 教授	個体別のスケトウダラの回遊履歴復元 ―北海道周辺の 3 グループの生態履歴―
7.1	東京大学 大気海洋研究所	横山 祐典 教授 / 平林 頌子 講師 / 宮入 陽介 特任助教 / 阿瀬 貴博 技術専門職員	人新世の奄美群島喜界島サンゴが記録する黒潮・琉球海流の変動とグローバルな気候変動との密接な関係
7.5	東京大学	秋澤 紀克 助教 / 小澤 一仁 特任研究員	海洋マントルにおける小スケール対流の証拠検出 ―南太平洋アイツタキ島マントル捕獲岩からのアプローチ―
7.8	東京大学 大気海洋研究所	川口 悠介 助教	± 0.01℃精度の海水温の揺れが物語る北極海の異変 ―夏と冬とで異なる海氷の動きやすさと海氷分布の変化―
7.19	東京大学	横山 祐典 教授 / 宮入 陽介 特任助教	これまでの 10 倍の効率で花粉を地層から分取し高精度年代測定を可能に ―大型花粉によって今まで諦めていた地層からの年代測定が実用化―
7.30	海洋研究開発機構	松村 義正 助教 / 漢那 直也 助教	氷河融解水の流入がフィヨルドの生物生産に与える影響を評価
7.31	東京大学	濱崎 恒二 教授	フグにフグ毒を与えるとどうなる？ ―テトロドトキシン摂取によるトラフグ腸内細菌叢の変化―
8.2	東京大学 大気海洋研究所	沖野 郷子 教授 / 齊藤 宏明 教授 / 小畑 元 教授 / 小川 浩史 教授 / 濱崎 恒二 教授 / 平井 惇也 講師 / 峰岸 有紀 准教授 / 秋澤 紀克 助教 / 矢萩 拓也 助教	学術研究船「白鳳丸」がインド洋での調査に出発 ―地球形成史から現代の海洋構造、生態系、気候影響まで総合的に調査―
8.6	東京大学	秋澤 紀克 助教	海洋マントルの有機炭素検出 ―南太平洋アイツタキ島マントル捕獲岩からのアプローチ―

発表日	主導機関	所内発表者	タイトル
8.22	東京海洋大学	伊藤 進一 教授	親潮・磯口ジェット合流域が 混合水域に栄養塩を供給することを発見 —サンマなどの幼魚の育成場に栄養が供給されるシステムを解明—
8.29	東京大学 (先端科学技術研究センター)	渡部 雅浩 教授	最近 40 年の太平洋赤道貿易風の強化の起源が明らかに —熱帯外の海水温変動からの遠隔影響で説明可能であることを実証—
8.30	東京大学	堀 正岳 特任研究員 / 吉森 正和 准教授 / 浮田 甚郎 特任研究員	かわりゆく北極の湿潤化メカニズム —温暖化の進んだ環境下における大気の湿潤化の要因—
9.11	東京大学	横山 祐典 教授 / 宮入 陽介 特任助教	黄砂が日本に來なかつた 3000 年前の気候イベントの発見 —富士山・本栖湖底に残された過去 8000 年の記録から気候変動を復元—
9.13	東京大学	高木 俊幸 助教	日焼け防止剤と高水温に応答するサンゴ遺伝子の網羅的な特定に成功 —人とサンゴ礁が共存共栄できる社会を目指して—
9.17	東北大学	玉川 克典 特任研究員	雌雄同体生物が進化したメカニズムに迫る —タンパク質にならない非コード領域の「急速な進化」が関与—
9.24	東北大学	笹木 晃平 特任研究員	19 億年前の微生物もリンを含む細胞膜を使っていた —超高解像度の新手法によって初期生命の細胞膜の可視化に成功!—
9.24	愛媛大学	横山 祐典 教授	世界中の地層から、1952 年頃に人の影響を示す痕跡の急増を発見! —人類が地球システムを圧倒し始める時点が初めて明らかに—
9.27	東京大学	北川 貴士 教授	サケ稚魚がコスパよく泳ぐには? —水温と体サイズに応じた遊泳能力の変化—
10.18	東京大学	横山 祐典 教授 / 平林 頌子 講師	世界標準放射性炭素年代補正カーブへの問題提起 —熊本県人吉球磨地方の鍾乳洞から明らかになった水循環の影響—
10.23	東京大学	高木 互 助教 / 兵藤 晋 教授	サメの赤ちゃんを守る自然のゆりかご —サメの卵の中の特殊な微生物環境を解明—
11.1	海洋研究開発機構	吉澤 晋 准教授	最古の光合成生物「シアノバクテリア」の新しい光利用システムを発見 —ロドプシンによる環境適応の軌跡が明らかに—
11.2	東京大学	白井 厚太郎 准教授 / 山口 飛鳥 准教授	温暖期なのに昔の東京湾は冷たかった? —過去の温暖期を生きた貝化石から水温の季節変化を復元—
11.18	東京大学	塩崎 拓平 准教授 / 伊知地 稔 特任研究員	窒素循環を駆動する微生物の網羅的検出法を開発 —アンモニア酸化酵素遺伝子の選択的シーケンシングによる 遺伝的多様性解析—
11.19	東京大学	平井 惇也 講師	海の動物プランクトンも病気になる? —海洋性ウイルスがカイアシ類の生理・生態に影響—
12.16	東京大学	神田 真司 准教授	父親は鰾の色を変えて口内の卵を隠して育てる —口内保育する魚における「隠すための婚姻色」—